

2021年11月1日
NEC ネットエスアイ株式会社

質問者 A

Q：デジタルソリューション事業(以下、DSL)の利益率について、第1四半期(1Q：4-6月)よりも第2四半期(2Q：7-9月)の方が下がっています。半導体不足の影響以外に、どのような影響があったのですか。

A：四半期ごとで見えてしまうと、どうしてもプロジェクトごとの収益性の良し悪しから、そのような影響が出てしまいますが、2Qも前年同期から見れば、しっかり収益性は向上出来ており、改善傾向は継続していると認識しています。

Q：上期は半導体不足の影響を受けてしまったようですが、下期以降いつぐらいまで続くと思込んでいますか。

A：3Qぐらいまでは、現在の厳しい状況が継続すると見ており、下期も上期と同程度のインパクトを見込んでいます。半導体以外にも、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)でのロックダウン影響による東南アジアなどでの生産部材の調達の問題なども含めて、下期は影響を受けるものと見込んでいますし、翌期へのずれ込みもあると考えています。

Q：コロナ新規感染者数が減少し、オフィス回帰の動きなども出ているようです。このような環境変化を受けて、戦略上の変更はありますか。

A：足元オフィス回帰の動きはありますが、コロナ前の状況に完全に戻るものではないと考えます。在宅勤務とオフィス勤務との、それぞれの良いところをうまく使いながら成果を高めていく事が必要で、そのようなハイブリッドワークを進めていきます。そのカギは、デジタル技術ですが、コロナを受けてサービス型のDX事業が拡大するとともに、当社の事業モデル自体もそれを活かしてSIにつなげる「ハイブリッド型」の事業へとモデル転換が進んでいます。良い方向に向かっているとの認識で、これを加速させていきます。

質問者 B

Q：上期、下期の半導体不足の影響をセグメント別に整理させてください。下期の影響はすでに予想値に織り込み済みという理解で正しいですか。また、どのように半導体不足に対応していくのでしょうか。

A：上期は、エンジニアリング&サポートサービス事業(以下、ESS)を中心に売上高で▲50億円強の影響を受けました。利益についても、▲10億円近い影響を受けた計算になります。下期についても、売上高、利益ともに上期同程度の影響を予想に織り込んでいます。まだ不透明な要素がありますが、各セグメントほぼ同程度の影響を受ける想定です。

半導体不足を受けて、調達できない製品については他でカバーできる製品を検討していますが、合わせて、作業工程などを見直し、調達に時間のかかる製品に関わらない業務を先行するなどの検討も進めていきたいと考えます。

Q：上期業績については、上方修正した予想に対して未達に終わりました。また、ネットワークインフラ事業(以下、NWI)については、上期未達の中、通期予想を上方修正していますが、このような入り絡りの考え方について教えてください。上期は半導体不足以外にも下方修正要因があったのでしょうか。

A：上期については、半導体不足の影響が中心でしたが、それ以外に、DSLにおいて、サービス化の進展スピードが速まり、受注から売上計上時期までが想定以上に長くなるということがありました。

NWIについては、キャリア向け事業が好調であり、受注残なども増えていますので、そのような状況を勘案し、上方修正しました。

Q：ローカル 5G について、実績や計画など定量的な進捗状況があれば教えて下さい。

A：ローカル 5G については、現在は実証実験が加速しているという段階で、まだ年間で十数億円を目指しているという状況です。次の中期計画期間に拡大させる考えで、計画策定中です。

質問者 C

Q：デジタル庁により、御社のビジネスにも恩恵があると感じますが、こういった領域を狙うことが考えられるのでしょうか。

A：デジタル庁から直接ということではありませんが、それが後押しになると考えています。例えば、安心・安全、防災、まちづくりといった分野と、当社の強みである働き方改革、この二つの領域になると思います。

質問者 D

Q：半導体不足や部材調達リスクは全産業に共通したものですが、そのなかで NESIC の強みや課題はどのようなもののでしょうか。

A：他社との比較は難しい面がありますが、当社としては、従来の製品 SI モデルですと、ほぼ全ての事業がそのような影響を受ける対象であったのに対し、ソリューションサービス型への移行を進めていることが、この面でも功を奏し、影響が小さくなったということは言えると考えています。

質問者 E

Q：受注が好調ですが、半導体不足で受注を抑える必要などありませんか。

A：上期には受注をあきらめた案件もありましたが、下期の予想には、プロジェクトの実行可能性を再検討して受注計画に織り込みました。

Q：DSL について、官庁・自治体向けの DX について好調との話がありましたが、民需向けの状況はどうでしたか。

A：全般に回復しつつあるという状況ですが、金融業向けは前期にプロジェクトが多く好調だった反動から減少となっています。サービス業向けは前年上期から横ばいの状況ですが、それ以外の企業向けは、製造業向けなど受注が増えています。

官庁・自治体向けは、受注の数字は大きく落ちていますが、これは前年の GIGA スクールの反動で、これを除けば、ご指摘の通り、好調に拡大しています。

質問者 F

Q：自治体向けのデジタル案件について、デジタル庁が自治体向けについても音頭取りをするような考え方もあるように聞いていますが、各県庁がすでに動いているのは、どのような思惑によるものと認識していますか。

A：当社としては、デジタル化による効果が期待できるため、お客様はなるべく早くそれを進めたいと考えておられるように感じています。

質問者 G

Q：半導体不足について、1Q 決算の説明では顕在化していないように聞いていましたが、いつごろから顕在化したのですか。

A：8 月以降、顕在化してきました。最初は、他でカバーできる程度の話とと思っていましたが、徐々に影響の大きさが見えてきました。

Q：半導体不足を受けて、下期は受注案件の見極めを行ったとのことですが、リソースシフト等で稼働を落とさずにいくことは可能ですか。

A：受注については、2Q も好調が継続できています。一部、半導体不足で対応できないことなどを織り込みましたが、下期も受注について好調を維持できると考えています。

以 上